



新たな出会いは旅の中に

新しい年の始まりは、新しい出会いにあふれています。
まだ見ぬ地を自身で感じる事が、旅行の醍醐味です。
文化・食事・風景・言語・・・日常とは異なる体験は一生の財産ではないでしょうか。

大人になると日々の暮らしの中で、新たな出会いの機会が少なくなります。
以前は踏み出せた一歩が、なかなか踏み出せない人もいます。
新たな一年は、新しい自分の始まりでもあります。

私たちJTBは新たな出会いを約束する旅のお手伝いをいたします。

(株)JTB大阪第二事業部

〒541-0056
大阪市中央区久太郎町 2-1-25 (JTBビル12階)
TEL.06(6260)0150(代) FAX.06(6260)0178
担当:岡田 悠

- | | |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 1 レオンコロ弦楽四重奏団 インタビュー | 9 民族楽器で旅する世界 vol.3「アフリカ」 |
| 4 主催事業のご案内 | 11 作曲家の部屋 vol.3 ハイドン「アイゼンシュタット」 |
| 5 グランプリ・コンサート2023 報告 | 13 室内楽誕生! エピソード vol.2 ベートーヴェン/ラズモフスキー |
| 6 コンクール特別賞のフェスティバル ご紹介 | 15 シンガポール室内楽フェスティバル2024レポート |
| 8 こどもクラシックミュージックアトリエ vol.5 | 17 イラスト・コミック ベートーヴェンのプロフィール |

レオンコロ弦楽四重奏団

インタビュー



僕らがクアルテットに持っている情熱を次の世代に伝えていきたい

©Peter Adamik

パンデミック後に現れた若いクアルテットがヨーロッパを席卷している。ベルリン芸術大学の学生を中心に結成されたレオンコロ弦楽四重奏団だ。2021年のパオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクールで最高位、翌22年にはウイグモアホール国際弦楽四重奏コンクール、ボルドー国際弦楽四重奏コンクールで優勝という圧倒的な成果を収め、現在、各地でのデビューが目白押し。レオンコロとは勇敢な心を意味する英語「ライオンハート」のエスペラント読みで、メンバーのシュヴァルツ兄弟が愛読した冒険物語の題名から採られたという。4月29日の来日公演の前にヴァイオリンのヨナタン・昌貴・シュヴァルツ、ヴィオラの近衛真由がインタビューに答えた。

取材・文 逢坂聖也 (音楽ライター)



会場協力: あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

LEONKORO QUARTET

Interview

——レオンコロ弦楽四重奏団が結成された経緯について教えてください。始まりはどんな風だったのか。

近衛…4人のうち3人がベルリン芸術大学で室内楽を学んでいました。ヴァイオリンの先生が元アルテミスQのハイメ・ミヨラー先生だったんです。チェロのルカスはライプツィヒの大学に行っていたんですが、アルテミスQに室内楽を習えるんだらうって言ってヘルリンへやって来て、それでメンバーが揃いました。でも初めから続けようと思っていない。2019年の夏、4人でドイツ南部のヴァイカーズハイムでミヨラー先生のマスタークラスを受講しました。そこでアルバン・ペルクQのギンター・ビヒラー先生と出会い、マドリッドへ呼んでもらったのが本格的な始まりです。

——そのわずか2年後にはパオロ・ボルチアーニで1位なしの2位。翌年にはウイグモア

アとボルドーで立て続けに優勝です。素晴らしい成果ですが新鮮に感じたことや、また戸惑ったことも多かったのでは？

近衛…ここまで早く行けるとは考えてもいませんでした。コンクールもまさかボルチアーニから受けるとは思いませんでした。その前に考えていたコンクールがコロナのためにキャンセルになって、私たちはほとんどコンサートで弾いた経験もないままボルチアーニを受けたんです。だから私たち全員、あそこまで行けたことにびっくりしました。

ヨナタン…ボルチアーニでは1位じゃなかったことに、実は感謝しているんです。あの頃、僕たちは成長過程でまだ何の準備もできていませんでした。だから翌年にウイグモアとボルドーで1位を得てキャリアをスタートできたことが、本当に良かったと思っています。

——コンクールに関する話の中で、「2年間クアルテットをやった結果が出なければ続かなかったかも知れない」と語っていましたがね？

近衛…そのことは最初からメンバー全員で話し合っていました。2年間コンクールをやった結果が出なければ、もう一度話し合って、そこで続けるかやめるか決めようって。将来のことを考えてリミットを区切ることは大事だと思います。幸い結果を出すことができましたけど。

——プレッシャーもあったでしょう？

ヨナタン…ボルドーでは特にすごいプレッシャーがありました。というのも大会の数か月前に僕はベルリンフィルのトレーニングプログラム「カラヤン・アカデミー」を辞めて、オーケストラではなく、このクアルテットでやっていくと決めたところだったんです。すごく難しい選択でした。だからそれが正しい判断だったと確信するために、ボルドーでは絶対に優勝しなければならぬ。そんなプレッシャーを感じていました。

——2020年からの2年間はパンデミックの時期でもありましたよね。そのことは活動に影響しましたか？

近衛…時間が溢れるほどありました。2020年には大学の授業やレッスンが全部なくなりました。友達に教会の鍵を借りて毎日そこで練習していました。練習をカンガン、リハーサルをカンガン、1日中やることができました。もう一生、あんな経験はできないと思います。

ヨナタン…あの2年間、僕らはずっと自分の音楽を育てることに集中できました。そのあとは家族や政府からのサポートもあり、コンサートをやってお金を稼がなくてはならないというストレスからも解放されていました。振り返ってみればクアルテットとしてはポジティブな時間だったと思います。



Jonathan Masaki Schwarz, Violin

——英estrアド誌(The Strad)に印象的な記事がありました。ギンター・ビヒラー先生に初めて会った時に、あなた方は優勝しなければならぬ。さもなければチャンスはない。とまず言われた、と。これはどんな状況だったのですか？

ヨナタン…あの時のことはよく覚えていますが、ヴァイカーズハイムのマスタークラスのことでした。世界には弦楽四重奏団がとておたくさんあってコンクールも山のようにあるので、プロモーターやエージェントに見つけてもらうには、どこかで必ず1位を獲らなければ生き残れないと言われました。いきなり厳しい言葉だったので、僕はその時、クアルテットを諦めようかな、と思ったりもしたんですが、結局はこの言葉がモチベーションになったんです。

近衛…ビヒラー先生は自分が厳しいことを認めているんです。誰かが言わなくちゃならないことだから、自分が責任を持って言うんだって。



Mayu Konoé, Viola

ザ・フェニックスホールに集う トップアンサンブルシリーズ 2024-2025

室内楽の至高のレガシー「ラズモフスキーセット」

大阪国際室内楽コンクール & フェスタ × あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール



時代を超えたウィーンの風 <ドイツ/2022年 ウィグモアホール国際弦楽四重奏コンクール、ホルダー国際弦楽四重奏コンクール第1位>

レオンコロ弦楽四重奏団 Leonkoro Quartet

会場 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

ウェーベルン: 弦楽四重奏のための緩徐楽章
シューベルト: 弦楽四重奏曲第9番 短調 D173
ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第7番 長調 op. 59-1 「ラズモフスキー第1番」

ヨナタン・昌貴・シュヴァルツ(ヴァイオリン)
アメリー・コジマ・ヴァルナー(ヴァイオリン)
近衛麻由(ヴィオラ)
ルカス・実・シュヴァルツ(チェロ)

2024 4/29(月・祝) 15:00開演 [全席指定] 一般 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生(25歳以下) ¥1,500



受け継がれる正統派ドイツサウンド <ドイツ/第2回大阪国際室内楽コンクール第1位>

ヘンシェル・クアルテット Henschel Quartet

会場 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール

メンデルスゾーン: 弦楽四重奏曲第3番 二長調 op. 44-1
シューベルト: 弦楽四重奏曲第13番 イ短調 D804 「ロザムンデ」
ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第9番 ハ長調 op. 59-3 「ラズモフスキー第3番」

クリストフ・ヘンシェル(ヴァイオリン)
ダニエル・ベル(ヴァイオリン)
モニカ・ヘンシェル(ヴィオラ)
マティアス・バイヤー=カルツホイ(チェロ)

2024 9/27(金) 19:00開演 [全席指定] 一般 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生(25歳以下) ¥1,500



弦楽四重奏大国アメリカで頭角を現す俊英 <アメリカ/第8回大阪国際室内楽コンクール第3位>

ヴェローナ・クアルテット Verona Quartet

会場 ytv 10hall

メンデルスゾーン: 弦楽四重奏曲第1番 変ホ長調 op. 12
ヤナーチェク: 弦楽四重奏曲第1番 ホ短調 「クワイゼルソナタ」
ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第8番 ホ短調 op. 59-2 「ラズモフスキー第2番」

ジョナサン・オン(ヴァイオリン)
ドロシー・ロー(ヴァイオリン)
アビゲイル・ロジャンスキー(ヴィオラ)
ジョナサン・ドーマンド(チェロ)

2025 3/1(土) 15:00開演 [全席自由] 一般 ¥5,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥4,500/学生(25歳以下) ¥1,500

チケット発売 ザ・フェニックスホール友の会優先 2023年11月24日(金)/一般 11月28日(火) 3回セット券 ¥13,000/ザ・フェニックスホール友の会 ¥11,500

チケット取扱 ザ・フェニックスホール チケットセンター 06-6363-7999 ※セット券、学生券はザ・フェニックスホールチケットセンターのみ取り扱い(学生券は25歳以下、要学生証提示) あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F(営業時間:10:00~17:00 休業日:土・日・祝日) 主催:公益財団法人日本室内楽振興財団 / あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール



速報!

グランプリ・コンサート2024

カピバラ・ピアノ・クアルテット <大阪国際室内楽コンクール2023第2部門優勝>



大阪国際室内楽コンクール2023で優勝し、圧倒的な実力を示したカピバラ・ピアノ・クアルテットが、今秋全国11都市を巡ります。

グランプリ・コンサート2024 特集ページはこちら >>>



日時	開演	公演地	会場	主催
11/2(土)	14:00	熊本	益城町文化会館	益城町文化会館管理運営共同企業体
3(日)	14:00	大分	くにさぎ総合文化センター	国東市/国東市教育委員会
5(火)	19:00	宮崎	小林市文化会館 小ホール	小林市/小林市教育委員会
7(木)	11:30	三重	三重県文化会館 小ホール	三重県文化会館(公財)三重県文化振興事業団
8(金)	14:00	神奈川	海老名市文化会館 小ホール	海老名楽友協会
9(土)	14:00	静岡	沼津市民文化センター 小ホール	(公財)沼津市振興公社
11(月)	19:00	大阪	住友生命いずみホール	(公財)日本室内楽振興財団 住友生命いずみホール[(一財)住友生命福祉文化財団]
14(木)	19:00	鳥取	鳥取市文化ホール	(公財)日本海テレビジョン放送(株) (一財)鳥取市教育福祉振興会
15(金)	19:00	広島	庄原市民会館	NPO法人庄原市芸術文化センター 庄原市教育委員会
17(日)	14:00	東京	トッパンホール	(公財)日本テレビ小鳩文化事業団
18(月)	19:00	富山	富山県高岡文化ホール 大ホール	富山県高岡文化ホール音楽友の会(公財)富山県文化振興財団

※日程は変更になる場合がございます。 全国主催:公益財団法人日本室内楽振興財団
※曲目・チケットなどの詳細は決定次第、日本室内楽振興財団ウェブサイトおよび各公演の主催者より発表いたします。



マリオ・ヘリング(ピアノ)
岡田脩一(ヴァイオリン)
近衛剛大(ヴィオラ)
ミンジ・キム(チェロ)



ヨナタン…メンターとしてとても優れた人だと思っています。直接音楽のことではないことでも話せまじし、いつもアドバイスをいただいています。エージンシーとどういう風にコミュニケーションを取るか、クアルテットの中ではどのような話し合いが必要か、そういうことまでも細かく教えてくれる方ですね。もちろん厳しい人なので彼の性格や言葉に耐える心が必要です。でも生徒のことをすごく思う人だなと感じています。

— 2022年にドイツの音楽事務所所ジメナウアー(Simmenauer)と契約しましたね。このことで、これまではコンクールでの優勝が目標でしたが、それ以外のビジョンも見えてきたのではありませんか?

ヨナタン…特にシューベルトに見られるんですが、ウィーン特有の様式感があります。ハイドンやモーツァルト、ブラームスに至るまでウィーンで活躍した作曲家たちはこの独特の様式感を大切にしているので、それをしっかりと表現していきたいと思っています。難しいのはこの様式感と自分たちの音楽とのバランスを取ることでですね。

— この先、ずっとクアルテットを続けて

近衛…メジャーなマネジメントから声をかけてもらって少し安心しました。コンクールは大事ですが、マネジメントがないとコンサートの仕事はできないから。大事なのはコンサートで認めてもらうこと。契約はウィグモアの前だったんですが、短期間でここまで来られたことは幸運だったと思います。

ヨナタン…現在の僕らの目標は、より上手に弾いていく、コンサートをよりしっかりとこなしていくことだと思っています。ツアーなども行いながらプロフェッショナルなクアルテットとしての在り方を身に着けていくことが重要です。というの、非常にも時間が少なくなってきたら、コンサートが増えれば増えるほど練習する時間が減っている。時間の使い方を学ぶことが課題なんです。

— 4月の来日公演のプログラムはウェーベルン、シューベルト、ベートーヴェン。3曲ともウィーンで作曲された作品ですが、聴きどころはどのあたりでしょうか?

ヨナタン…僕らの一番のゴールと言わうか、将来において自分たちが成功したと思えるだろうことは、より若い世代の人たちにクアルテットとして僕らと同じような道を歩んでもらえたら、ということなんです。いずれレオンコロ弦楽四重奏団も教育者として教えることになるのだと思っています。ですが、その時、先生としての喜びというの、自分たちを超えるようなクアルテットを育てることではないでしょうか。今、自分たちがクアルテットに持っている情熱を若い世代に伝えていけたら、それが一番の成功じゃないかと思っています。



いつ何年も経った時。その時にレオンコロ弦楽四重奏団はどんなことを実現していきたいと思えますか?

レオンコロ弦楽四重奏団 LEONKORO QUARTET

ヨナタン・昌貴・シュヴァルツ/アメリー・コジマ・ヴァルナー(ヴァイオリン)
近衛麻由(ヴィオラ)、ルカス・実・シュヴァルツ(チェロ)

2019年にベルリンで結成。レオンコロとはスペイン語でライオンハートを意味する。2022年ホルダーコンクール第1位、聴衆賞、若手聴衆賞を受賞。同年、ウィグモアホールコンクールで優勝に加え9つの特別賞を獲得。その前年にはプレミオ・パオロ・ボルチアーニコンクールを最年少で第2位(1位無し)、観客賞も獲得。ハイメ・ミュラー、ギンター・ビヒラー、アルテミス・クアルテットのメンバーに師事。アルフレッド・ブレンデル、ラインハルト・ゲベル、ライナー・シュミット、オリヴァー・ヴィレなどから音楽的な感銘を受けた。2023年秋にラヴェルの弦楽四重奏曲とシューマンの弦楽四重奏曲第3番を収録したCDデビューを果たす。2023-2024年のシーズン、ベルリンフィルハーモニー、ケルンフィルハーモニー、コンサートヘボウなどのホールでデビューを飾る。また、英国リーズでアーティスト・イン・レジデンスを務める。



クアルテット・インダコ

その音楽は、花火のように煌めく。

— 大阪国際室内楽コンクール2023第1部門第1位 —



QUARTETTO INDACO

©Manabu Akamatsu

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023の

優勝団体によるグランプリ・コンサート

2023年11月に全国11都市で開催しました。

代替公演を経て、実に4年ぶりの開催となりました。

クアルテット・インダコ
エレオノラ・マツノ(ヴァイオリン)
イダ・ディ・ヴィータ(ヴァイオリン)
ジャミアング・サンティ(ヴィオラ)
コジモ・カロヴァニ(チェロ)

11/19(日) 14:00 東京 A
浜離宮朝日ホール

11/18(土) 14:00 神奈川 A
海老名市文化会館

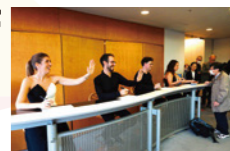
11/17(金) 19:00 神奈川 B
横浜市鶴見区民文化センター

11/4(土) 14:00 三重※
三重県文化会館

11/6(月) 19:00 大阪 B
住友生命いずみホール

11/12(日) 14:00 大分 B
くにさき総合文化センター

11/14(火) 19:00 宮崎 A
小林市文化会館



終演後はサイン会も実施。お客様に手を振る姿も。



優勝の地大阪でも熱い演奏を繰り広げた

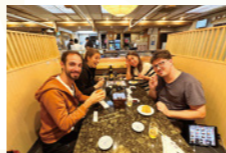
Program

プログラム A	ヴァスクス：弦楽四重奏曲第5番 ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第10番 変ホ長調「ハーブ」op. 74 シューベルト：弦楽四重奏曲第14番 二短調「死と乙女」D810
プログラム B	ボッケリーニ：弦楽四重奏曲ト長調「ティラーナ」op. 44-4 ラヴェル：弦楽四重奏曲 へ長調 シューベルト：弦楽四重奏曲第15番 ト長調 D887

※11/4三重公演は、前半A、後半Bのプログラムで実施いたしました。



11/8(水) 19:00 富山 A
富山県高岡文化ホール



回転すし店にて。コジモ、納豆巻きを初体験!

11/1(水) 19:00 鳥取 A
鳥取市文化ホール



鳥取公演のPR活動として日本海テレビの情報番組「おびわんっ!」の生放送に出演

11/11(土) 14:00 熊本 A
益城町文化会館



エレオノラの日本人の父の故郷熊本で、叔父さんに再会

特別番組が放送されました!

読売テレビ(10ch/関西ローカル) 2023. 11/28(火) 25:59~28:18



特別番組「グランプリ・コンサート2023」として、大阪公演の演奏や、メンバーへのインタビューなどが放映されました。現在、読売テレビ公式YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。

動画はこちら▶



第4回ストリング・クアルテット・ビエンナーレ・アムステルダム

アムステルダム水上ホールで、弦楽四重奏の国際音楽祭が開かれた。大阪国際室内楽コンクール2023の特別賞として出演したクアルテット・インダコが若手の活躍の様子をお伝えする。



©Eduardus Lee

誓のヤスミン・ヒルベル
ディンクさんは今、「弦
楽四重奏はある種のル
ネサンス期にある」と
感じている。
「2018年の立ち
上げ当初、若手は主に
伝統的なレパートリー
を最良の形で『再現』し
ているように見えました
。ですが、今ではいく
つもの若いクアルテット
が、伝統を担う責任と
自らの時代や世代の代
表という自覚をもって

高いクオリティで活動しています。様々な
作品を紹介し、若い作曲家と繋がるなどし
て、音楽に新たな要素や層を加えているの
です。」

若い世代に声を与える場所

「ビエンナーレは最高峰のクアルテットの
パレードや名作展示会ではなく、若い世代に
声を与え、演奏家自身が境界線を押し広げ
るための場です。出身や演奏スタイルを問わ
ず、万華鏡のような豊かさに加わってほしい
と思います。」

今回出演した24団体のうち、11団体は若
い世代のクアルテットだ。中でも特に注目を
集めたのが、国際コンクールで優勝した3団

体による公演「グラスルーツ」だった。

最初に登場したのは、2021年トロンハ
イム国際室内楽コンクール優勝のコンフルエ
ンス弦楽四重奏団(フランス)。ウエーベルン
「弦楽四重奏のための緩徐楽章」と結成当
初から弾き込むラヴェルの弦楽四重奏曲
で、安定感のある知的な演奏を聞かせた。
2022年バンフ国際弦楽四重奏コンク
ル優勝のインドア弦楽四重奏団(米国)は
「クラシックやジャズの好きな部分が詰まっ
ている」2曲を披露。明瞭で構造美を感じ
させるハイドンの弦楽四重奏曲第2番の
後、2012年作のヒリー・チャイルズの弦楽
四重奏曲第2番「目覚め」で雄弁なヴァイオ
リンが牽引し、緊張感のある世界を鮮やか
に描き出した。

公演のトリを飾ったのは、大阪国際室内楽
コンクール優勝のクアルテットインダコ(イタ
リア)だ。「タイユフェールの弦楽四重奏曲
とベートーヴェンの第11番『セリオン』、私
たちはこの2曲のぎゅっと詰まった濃密さ
が好きです」と語ったのはコジモ・カロヴァニ
(チェロ)。たゆたうようなタイユフェールの
冒頭からの、のびやかに優雅な歌い方と4人
の溶け合う音色に客席が包み込まれた。音
楽の自然な勢いを生かしながら、聴き手を
作品の内部へと誘いこむ。「セリオン」は
スケールが大きく、細部まで血の通った快演
だった。空間に豊かに音を響かせるイタリア
らしい感性や情感溢れる表現が光り、熱狂
的な喝采とスタンディングオベーションを

受けた。

若いクアルテットと旅する

「大阪国際室内楽コンクールなどの協力の
もと、優勝者たちを紹介できることに感謝
しています。彼らは世界に出る準備の整った
演奏家であると同時に、まだ若く、完全に
形作られていない部分を持っています。です
から数年後にまた出会うと、どの道を選び、
どう発展したのかが見え、聴衆にとって面白
い。若いクアルテットを聞くのは、一緒に旅
をするようなものです」とヒルベルディンク
さん。オープンな国民性のオランダでは、
若手が輝く土壌が整っている。さらに高く
飛び立つ新鋭たちの活躍が楽しみだ。



アムステルダム中央駅近くの水上に建つ
ムジークヘボウ

四重奏のための音楽
祭で、様々な国から
アーティストが集結。
伝統音楽から現代
曲、ダンサーとの作
品など、従来の弦楽
四重奏の枠を超え
る公演が並び、のべ
1万3千人を集め
た。創設者で芸術監



©Eduardus Lee

「グラスルーツ」公演を締めくくったクアルテット・インダコ

調査研究事業

こどもクラシックミュージックアトリエ vol.5

2024.3/1(金) ①11:00-11:45 参加者 大人22 子供27 ②14:00-14:45 参加者 大人30 子供28

住友生命いずみホール

対象：未就学児とその保護者 料金：無料(事前応募によるご招待)
出演：上敷領 藍子(ヴァイオリン)、相原 瞳(ヴァイオリン)、後藤 彩子(ヴィオラ)、佐藤 響(チェロ)
主催：公益財団法人 日本室内楽振興財団 / 住友生命いずみホール(一般財団法人 住友生命福祉文化財団)



演奏曲

- バッハ：カンノン
- ヴィヴァルディ：「春」
- 梁田真：どんぐりころころ
- アンダーソン：フィドルファドル
- チャイコフスキー：アンダンテ・カンタービレ
- ヤナーチェク：弦楽四重奏曲 第1番 第1楽章
- ショスタコーヴィチ：弦楽四重奏曲 第8番 第2楽章
- シューマン：弦楽四重奏曲 第1番 第4楽章
- モーツァルト：弦楽四重奏曲 第14番「春」第4楽章

「こどもクラシックミュージックアトリエ」は、調査研究事業「子ども向け音楽プログラム開発」の研究の一環として、2022年より住友生命いずみホール(一般財団法人 住友生命福祉文化財団)と共同で実施しています。今回は未就学児とその保護者を対象に、住友生命いずみホールの舞台上で鑑賞するコンサートプログラムを企画し、実施しました。

今回のプログラムは、「音楽から感じる気持ち」をテーマに構成。クラシック音楽の曲はもちろんのこと、絵本「どんぐりころころそのあとは」を読みながら、こどもたちも知っている「どんぐりころころ」の曲を絵本に合わせて変奏するなど、表現の変化を楽しみました。開演前、終演後はロビーで楽器体験を開催！初めてさわるヴァイオリン、チェロにドキドキしながら、音を鳴らす姿が見られました。



絵本「どんぐりころころそのあとは」(作:志村まゆみ、新日本出版)

お客様の声(アンケートより抜粋)

- * 初めての弦楽器に心奪われていました。また、どんぐりころころと一緒に歌えることが嬉しかったようです。
- * 演奏が始まる前、息子はずっと大きな声で同じ言葉を繰り返して、なんだろう?と思っていたら、ホールの響きを感じていたようです。ほわほわすると言っていました。その発見に感動しました。
- * 皆さんの演奏される姿をよく観察していたようで、ロビーでヴァイオリンに触らせて頂いた時にしっかり真似ができていました。
- * 客席からではなく舞台上で音楽家の皆さんと同じ目線で楽しめる座席配置に感動しました。
- * こども以上に、親が久しぶりのクラシック音楽を間近で聴けてとても嬉しかったです。
- * こどもたちに本物の音楽に触れさせたいと思っていましたが、なかなか未就学児には機会がなかったです。しかも素敵なホールですので、今回楽しみにしていました。冒頭のカノンから感動して、親の私も涙が溢れました。

後藤彩子さん(ヴィオラ奏者)にお話を聞きました



このコンサートは、日本室内楽振興財団の調査研究事業委員として後藤彩子さんが中心に企画を行っています。コンサート終了後、こどもクラシックミュージックアトリエへの思いや展望を聴きました!

♪ どのような思いでこのコンサートを作っていますか?
子どもだけでなく、一緒に来る保護者の方も「わあ!」とされる、驚きや発見のあるコンサートを目指しています。

♪ ホールの舞台上で聴くスタイルになったのはなぜですか?
ホールならではの体験、そして親密感のある室内楽ならではの体験ができるよう、より距離の近いホールの舞台上で音楽を聴いていただくというスタイルになりました。

♪ 5回の開催を経て、いかがですか?
一緒に演奏するメンバーとも、「演奏家の私たち自身も成長してきている」と話しています。間合い、子供のリアクションへの対応、どんなアクティビティを入れるか... 1回1回着実に積み重ねてきたことで、演奏者自身もステップアップをしていると感じています。

♪ 今後はどんな進化を考えていますか?
近現代の音楽を使ったコンサートもしてみたいと思っています。

♪ ありがとうございます



次回予告

こどもクラシックミュージックアトリエ vol.6

★小学生対象 事前応募・招待制

2024.8/16(金) 午前・午後2回公演予定
住友生命いずみホール

詳細は決定次第、日本室内楽振興財団ウェブサイトでお知らせします。

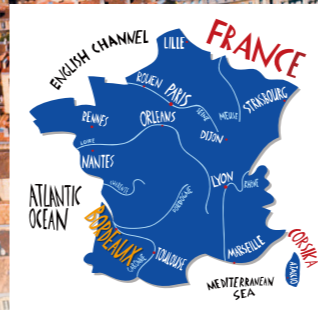


Vol.4より

大阪国際室内楽コンクール2023 / 特別賞のフェスティバルをご紹介します!

ボルドー弦楽四重奏フェスティバル2024

2024.5/14-23



ワインの産地として有名なフランス・ボルドーで、世界の弦楽四重奏界において登竜門といわれるコンクールが、3年に1度開催されている。本号にもインタビューが掲載されているレオンコン弦楽四重奏団は、2022年開催時の覇者だ。芸術監督は、モディリアーニ弦楽四重奏団がとめている。



大阪国際室内楽コンクール2023 セミファイナル

大阪国際室内楽コンクール2023
ボルドー弦楽四重奏フェスティバル受賞
タレイア・クアルテットが参加します

参加クアルテットに提供される主なプログラム

- ▶ モディリアーニ弦楽四重奏団とのマスタークラス
- ▶ アマンディヌ・ペイヤー(キトゥート弦楽四重奏団のメンバー)とのマスタークラス
- ▶ ユー・グ・デショー(音響技術、モディリアーニ弦楽四重奏団のメンバー)の監修による、プロフェッショナルな条件下での録音セッション
- ▶ 音楽学者による解釈の歴史に関するワークショップ
- ▶ ダンサーや音楽家を専門とする理学療法士によるけがの予防と療法に関するワークショップ
- ▶ 弁護士による産業財産権および知的財産権に関するワークショップ
- ▶ プレゼンテーションスキルを磨くワークショップ

そしてコンクールが開催されない間の2年は、フェスティバルを開催している。大阪国際室内楽コンクール2023で、そのフェスティバルへの参加権が「ボルドー弦楽四重奏フェスティバル特別賞」として設けられ、日本のタレイア・クアルテットが受賞した。

このフェスティバルでは、若手クアルテットを公募で招聘し、フェスティバル期間中に様々なプログラムを受けることが出来る。演奏家によるマスタークラスのほか、プロフェッショナルとして必要な知識や技術を学ぶ非常に魅力的なプログラムが展開されている。次号では現地レポートを掲載予定、乞うご期待。

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023記念CD発売!

大阪国際室内楽コンクール&フェスタ2023の開催を記念した3種類のCDが発売されました。オンラインでもご購入いただけますので、是非お買い求めください。

ご購入はこちら / Yahoo!ショッピング YTVショップ



コンクール第1部門
クアルテット・インダコ/イタリア 第1部門第1位
シュベルト:弦楽四重奏曲第15番 op.161 D887
ほのカルテット/日本 第1部門第2位
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第11番 op.95「セリオーン」



コンクール第2部門
カピバラ・ピアノ・クアルテット/ドイツ 第2部門第1位
ブラームス:ピアノ四重奏曲第3番 op.60
フォーレ:ピアノ四重奏曲第2番 op.45



フェスタ
テングエル・アヤルグー/モンゴル メニューイン金賞
エ・チョイドグ:美しいモンゴルについて
テングエル・アヤルグー:古代モンゴル史について
モーツァルト:トルコ行進曲(ロンド)
カプア:オーソレ・ミオ
ビゼー(ホルヌ編曲):カルメン・ファンタジー
クインテット・ル・パトール・イーヴル/フランス 銀賞
ジョンゲン:五声のコンセル 第1楽章
ジョリヴェ:リノスの歌
スタス&タチアナ/アメリカ 銅賞
ガヴリーリン:タランテラ
ファリヤ:スペイン舞曲
ウィリアムス:悪魔の踊り
ウクライナ民謡/伝統音楽による変奏曲

アフリカの民族楽器

西アフリカは民族楽器の宝庫。
現代でも盛んに演奏が行われている

アフリカ大陸サハラ砂漠の南側、そして大西洋に近い西アフリカ一帯は古代から栄え、中世には王国も存在した。様々な民族が暮らす地域だが、共通して使う楽器も多く、それは後に中南米音楽にも影響を与えることになる。

構成・文／片桐卓也



バラフォン

バラフォンは西アフリカで使われる木琴の総称で、各民族によって違った名前で行われることもある。西洋風の木琴と違う点は、木の板の下に音を共鳴させるひょうたんをくり付け、音を増幅していること。それをやはり木で作ったパチで叩く。音を出す板の数は様々だが、代表的なスタイルのものは7音音階（小さいものは5音音階）を出せるように作られている。おそらくは奴隷として連れて来られたアフリカ系民族が中南米にこの楽器を伝え、それが現在のマリンバのもとになったとされる。バラフォンによるアンサンブルは現在でも盛んに行われており、西アフリカを代表する楽器として世界的によく知られている。



ドゥヌン



西アフリカ一帯で使われる打楽器。様々な大きさのドゥヌンがあり、それぞれの音高も違うので、組み合わせて使うことが多い。他の打楽器と同じように、木をくり抜いて、両面に動物の皮を張り、木製のパチで叩いて音を出す。この楽器単独で使われるというよりも、ジャンベなど他の打楽器とのアンサンブルの中で使用されることが多い。ボディの外側に張られた弦の張力によって、音程を変えることも可能である。木製のパチも部族によって様々な形があり、真っ直ぐなもの、曲がったものなど、非常に多様であるのも特徴だ。演奏の時には紐を使い、それを肩にかけて、打面を前向きにして演奏する。そのあたりも西アフリカ特有のスタイルと言える。

タマニ (トーキングドラム)



日本で言えば能楽に使う鼓、その大型のものと考えれば良いかもしれない。西洋では「トーキングドラム」と呼ぶ打楽器の一種で、この打楽器を紐で肩にかけて、叩きながら歌うので、そう呼ばれるようになった。形としては砂時計型と呼ばれる独特の形状をしており、両面に皮が張ってある。叩くスティックは、先が曲がったタイプの木を使うが、スティックの形状も独特で、先端を丸く曲げ、叩く部分は平たく加工してある。脇に抱えた場合、張ってある紐の部分を抱える強さによって音程を変える仕組みで、おそらく実際に演奏するのはなかなか難しい楽器なのだと思像される。マリの左隣の国セネガルでは「タマ」と呼ばれる。

コラ

コラは西アフリカ特有の弦楽器である。西洋で言えば、ハープとリュートを兼ねたような存在と言える。代表的なコラは21弦を持っている。ボディは木をくり抜いて作り、そこに牛(あるいはヤギ)の皮を張り、弦を張るための長いネック部を付ける。21の弦はボディ下部のブリッジに付けられるけれど、そのブリッジは表面の皮には接触しないように作られているので、楽器の分類としてはかなりユニークな存在となる。21の弦はそれぞれが別の音を出せるように調律される。この楽器を演奏する人はグリオ(世襲制の職業音楽家)と呼ばれ、吟遊詩人の役割を果たしている。その職業は神聖なもので、かつてはグリオの楽器を一般の人が触ることが出来なかった。



ソク

やはり西アフリカ一帯に存在する弦楽器で、1弦の楽器である。これも木をくり抜き、そこに牛などの皮を張って共鳴させる。弦を鳴らすのは西洋とは違う形の弓で、様々なタイプの弓がある。伝統的にマリの西部の音楽で使われる楽器とされるが、1弦しかなく、しかもボディも小さいので、音はかなり高め。一説によれば、泣いている女性の声を模した音を出す、とも言われている。他の弦楽器も同じだが、弦を張る場合に、ネックの部分に並行に、つまりヴァイオリンのように弦をネック部の板に押し付けて音を出すのではなく、ネック部に対してかなり高く直角に張られた弦を演奏するという点が、西アフリカ一帯の弦楽器の特徴となっている。



ソゴニ

これも北アフリカから西アフリカにかけて広く分布している弦楽器のひとつ。部族によって呼び名も違う。ジェリ・ソゴニと呼ぶ場合もある。木製の胴体に牛やヤギの皮を張って、細長いネック部を付け、そこに弦を張って演奏する。弦の数は4本から8本が多いが、4本弦の場合でも、両側の2本の弦は共鳴弦で演奏せず、中央部の2本の弦を使って演奏する。ある意味、ちょっと小さめのギターと言えるだろう。これもグリオ(世襲の音楽家で、歴史を物語る人)の使う楽器であった。これがアメリカ大陸へ伝えられ、後にバンジョー(アメリカのカントリー・ミュージックなどで使われる弦楽器)の元となったという説もある。



ジャンベ

アフリカ各地域に原産する木をある程度の長さで切って、その中をくり抜いて作る打楽器。全体はワイングラスの形にも似ていると表現される。そのくり抜いた部分の上にヤギの皮を張って叩く。マリはもちろんのこと、より西側に位置するギニアでもよく使われる打楽器である。使う木の種類、皮の状態によって、個々に音が違うとされる。演奏法としては、丸椅子に座り、背を伸ばして楽器を足で抱え、少し前に傾けて両手で叩く。手で表面の皮を打つ場所によって、高音、中音、低音を出すことができる。アフリカの楽器としては日本でもよく知られたもののひとつで、民族音楽のコンサートでも耳にすることがある。



こういう場所で聴ける

現代で活躍するアフリカ系音楽家をチェックしてみてもオススメ

アフリカ音楽と言っても、北アフリカ、西アフリカ、東アフリカ、南アフリカと、大まかに分けてもかなりの違いがあり、またそれぞれの地域でも部族によって楽器の呼称、演奏法、音楽のスタイルに違いがあるので、アフリカ音楽を語るには辞書が一冊必要になる。その中でマリの音楽は、現代でもその伝統を継いで演奏する人も多く、また民族楽器のアンサンブルもあり、サリフ・ケイタ(1949〜)のようにマリ出身の世界的なアーティストも存在するので、比較的アクセスしやすいほうだと思ふ。サリフ・ケイタは来日公演を行ったこともあり、民族音楽を取り入れているので、アルバムを聞いてみるのも良い。

日本でアフリカ音楽のライブに接する機会はないかなが無ければ、アフリカ出身者の多いフランス、パリなどではアフリカ音楽を聴くチャンスが多いかもしれない。日本でもアフリカの楽器を扱う店を訪ねてみるのも良い。またセネガル出身の打楽器奏者ラティール・シー(athar, S)は現在、日本に住んでおり、日本のミュージシャンのライブ活動・録音などに参加するほか、国の主催する晩餐会、ワールドカップの公式式典などにも出演しているため、名前を見かけたら、ぜひその演奏を聞いてみよう。

Franz Joseph Haydn

ハイドン「アイゼンシュタット」



アイゼンシュタットの景色

アイゼンシュタットで30年ほどを過ごしたハイドン。突拍子もない発想の作品を多く生んだこの地は、人里離れた辺境でした。

アイゼンシュタット

「国境に面した小さな城下町」

1732年、ハンガリーとの国境に位置したオーストリア・ローラウ村で生まれたハイドンは、聖歌隊の団員としてウィーンに居住を置き、ボヘミアにて宮廷楽長を3年ほど務めたのち、1761年(29歳)、アイゼンシュタットのエステルハージ家に副楽長として就職します。そして、1793年にウィーンで家を購



エステルハージ城

入するまで、この地で暮らしました。

このアイゼンシュタットという場所は、ハイドンが生まれたローラウからそこまで遠くなく、同じくハンガリーとの国境に近い町です。近くには、ノイジードラー湖という、世界自然遺産にも指定されている大きな湖があり、自然も大変豊かです。ここには、エステルハージという、中世から続くハンガリーの貴族が城を構えており、ハイドン自身もその家に住んでいました。町の中心に位置

するエステルハージ城から少し歩くと人が少ない、自然が多くなってくるほど、小さな町です。1785年時点での人口は、たったの4410人。今ここで、電車に乗れば首都ウィーンまで1時間ほどで行けますが、当時は気軽に行けるような場所では全くなく、都会とは隔絶された場所だったのです。

家を出て町を歩けば、すれ違うのはみんな知った顔の人ばかり。この場所ではハイドンはどのような気持ちを抱きながら、どのような生活をし、

家庭の不和と、動物との生活

ハイドンは、エステルハージ家に住み始める1年前にマリア・アンナという女性と結婚し、アイゼンシュタットへやってきました。小さな町での生活は、新婚ほやほやで幸せに満ち溢れていたかという、決してそうではなかったようです。マリア・アンナは、半ば強制的に結婚させられた女性で、喧嘩早く、他人の噂話しかせず、見た目もタイプではなかったのです。さらに「あの女は、自分の夫が芸術家である」と、コツパン職人だろうと、全く



ハイドンが住んでいた家の壁紙(当時のまま)

ハイドンがペットを飼っていた半地下



気にしないだろう」と述べるほど、音楽には全く関心がなかったのです。中でも、ハイドンが家に帰ると、自分が書きかけていた作品の楽譜が、手作りお菓子の包み紙や、濡れた靴の湿気とりの紙としてぐしゃぐしゃにされた時には憤慨したそう。ハイドンが宮廷楽長に昇格した1766年、家を購入したにもかかわらず、懇いな

い生活が続きました。うんざりしたハイドンは、1768年から1頭のヤギ、2匹のブタ、14羽のイタリア産のニワトリをペットとして迎え入れ、半地下で飼いはじめました。1778年、我慢できなくなったハイドンは、購入していた家を売却。ハイドンはエステルハージ城の寮に引越し、マリア・アンナとは別居します。

最先鋭の音楽家たちとの創作意欲に溢れた生活

仕事場のエステルハージ家が抱えるオーケストラは、決して大きなもの、素晴らしい演奏家を集めていました。中でも首席の演奏者は、主な雇い主だったニコラウス・エステルハージ侯が、外国で自らヘッドハンティングして連れてきた人もいたほどです。粒揃いの演奏家たちに囲まれた生活は、ハイドンの創作意欲をかき立てました。ここではたくさんの交響曲、ピアノ三重奏曲、そして弦楽四重奏曲が作曲されましたが、このオーケストラの演奏者の技量や音楽性を考えて作曲されたにほかなりません。

このお城では、毎日夜6時からオペラや演劇が催されており、侯爵は毎日これを鑑賞していました。そしてこの音楽を指揮するのもハイドンの仕事でした。イタリアで流行している喜劇を上演するときもあれば、ハイドンが作った出来立てほやほやのオペラを上演することもありました。中には、



ペルク教会のハイドン廟

人形劇にて上演したオペラもあったようです。こうしたエンターテイメントは、侯爵だけでなく、小さな町の数少ない貴重な娯楽の一つだったので、いつもたくさんの人たちで賑わっていたようです。

エステルハージ家でハイドンを雇っていたニコラウス侯爵が死去。これを機に、ハイドンはエステルハージ家の宮廷楽長を退職し、年金生活をしつつ、ウィーンへ活動の拠点を移しました。そして、2度にわたるロンドン旅行など、1809年(77歳)に亡くなるまで、新しいことに挑戦し

「侯爵は、私のすべての作品に満足してくれた。私は楽長として、色々なことを試し、どんな音楽が効果的で、何がそうではないのかを考え、改良し、付け加え、削り、リスクを冒すこともできた。アイゼンシュタットは世間から切り離された場所であったが、逆に言えば、私の音楽を邪魔するものは何もなかった。こうして私は、独創的にならざるを得なかったのだ。」

大井 駿 (文&写真)

指揮者、ピアニスト、古楽器奏者。1993年、東京都出身。第1回次世代指揮者コンクールにて優勝。パリ、ミュンヘン、ウィーン、ザルツブルク、バーゼルにて、ピアノと指揮と古楽を学ぶ。読売日本交響楽団、東京都交響楽団、広島交響楽団、モーツァルトウム管弦楽団等と共演。



音楽史に名を残す方法



ベートーヴェンが残した弦楽四重奏曲のなかでも、とりわけ人気の高いのが3曲のラズモフスキー四重奏曲。作品を依頼してくれたラズモフスキー伯爵には「ありがとう!」と声を大にして言いたい。でも気になることが……。

飯尾洋一 (音楽ライター)

ラズモフスキー四重奏曲に引用される民謡は

このアンドレイ・ラズモフスキーなるパトロンはロシアのウィーン駐在全権大使でもあった。ラズモフスキー家はウクライナにルーツを持つ名家で、アンドレイの父キリルや伯父アレクセイはロシア帝国とウクライナ・コサックの歴史を語る際にしばしば言及される重要人物である。もしもベートーヴェンに曲を委嘱していなかったら、ラズモフスキー家のおかげでアンドレイの名が挙がることはまだだったにちがいない。

せっかくパトロンとしてお金を出すのであれば、なんらかの形で作品そのものに自分の刻印を残したい。アンドレイ・ラズモフスキーはそんなふう考えたかもしれない。ラズモフスキー四重奏曲にはロシア民謡が引用されている。「ラズモフスキー第1番」の第4楽章には「ロシアの主題」と記され、当時刊行されていたロシア民謡集に載る「ああ、私の運命よ」が登場する。ラズモフ

パトロンの偉業とは天才に傑作を作らせること

ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は室内楽における一種の聖典のようなものだろう。第1番から第16番まで、初期、中期、後期にわたって傑作が残されており、それぞれの時期のベートーヴェンの作風がよく反映されている。なかでも、中期の傑作として名高いのが「ラズモフスキー」第1番から第3番の3曲。弦楽四重奏の枠を超越するような熱く壮大なドラマが表現されている。交響曲でいえば「英雄」や「運命」と同様の、もつともベートーヴェンらしい傑作群だ。「ラズモフスキー」という愛称が付いているおかげで、作品名を覚えやすいのもありがた

い……。そう、名前は大事なのだ。「ラズモフスキー」第1番。そう書けば、どの曲を指しているか、簡単に伝わる。でもちゃん

と曲名を書こうと思ったら、こうなる。弦楽四重奏曲第7番へ長調作品59-1「ラズモフスキー第1番」。

この曲名、なんだかおかしくない? 最初に知ったときからずっと落ち着かなくてムズムズしている。だって、ひとつの曲に「第7番」と「第1番」というふたつの番号がくっついているのだ。なんとも煩雑だ。続く弦楽四重奏曲第8番は「ラズモフスキー第2番」で、弦楽四重奏曲第9番は「ラズモフスキー第3番」。なんというか、もつと整理された命名法はなかったのかと思わずにはいられない。これはひとつの曲に番号が2つも出てくるからわかりづらいのであって、たとえば「ラズモフスキー松」「ラズモフスキー竹」「ラズモフスキー梅」のように松竹梅で愛称を割り振っておけば、

もつとすっきりした形になっただけ。いや、松竹梅では西洋音楽にそぐわないか。

ともあれ、事の本質はアンドレイ・ラズモフスキー伯爵がベートーヴェンに3曲も弦楽四重奏曲を委嘱してくれたというところにある。もし1曲だけならその曲の愛称が「ラズモフスキー」になっただけの話だが、創作意欲が爆発していた中期のベートーヴェンに3曲も頼んでくれたのだ。これは偉業である。ラズモフスキー四重奏曲が不滅の名曲であれば、ラズモフスキーの名もまた不滅ということになる。ラズモフスキー本人はアマチュアのヴァイオリニストにすぎなかったが、彼は天才に最良のタイミン

もう一曲のラズモフスキー四重奏曲の謎

さて、こうなると「ラズモフスキー第3番」はどうなっているのかという疑問がわく。この曲については、ロシア民謡の明確な使用は認められない。民謡は第1番と第2番で使ったのだから、第3番はもう使わなくてもいいとベートーヴェンは考えたのだろうか。でも、この曲にもなんらかの引用があったと考えるほうが自然なように思える。

候補となるのは第2楽章の寂しげな冒頭主題だ。これは民謡風に感じられる。ひょっとして、ラズモフスキーが口頭でベートーヴェンに伝えたメロディだったのかもしれない。民謡集には掲載されていないが、子供時代に聞いて特別な愛着を持った民謡や子守唄だったとか?

そんなふうにも想像をたくましくするのだが、本当のところはどうなんでしょうね。

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲全集

ベルチャ・クアルテット (第3回大阪国際室内楽コンクール第1部門優勝)

現代を代表する弦楽四重奏団であるベルチャ・クアルテットが2011年から2012年にかけて録音した全集。ベルチャ・クアルテットは1994年に結成され、その後、メンバーを変更しながら第一線で活躍している。本録音ではコリーナ・ベルチャが第1ヴァイオリン、アクセル・シャハーが第2ヴァイオリン、クシシュトフ・ホジェルスキーがヴィオラ、アントワーヌ・レデルランがチェロを務める。鮮烈にして精緻、そしてスリリング。新時代のスタンダードだ。

Spotifyなど、ストリーミングサービスでも聴けます!



プロデューサーが行く！
世界の室内楽の現在

「Connect, Share, Celebrate」 シンガポール室内楽フェスティバル2024!



常夏の国シンガポールで、シンガポール室内楽フェスティバル2024 (SCMF 2024) が開催された。日本からも葵トリオが招待された新しいフェスティバルは何を目指しているのか。 河井 拓 (大阪国際室内楽コンクール&フェスタ 総合プロデューサー)



SCMF2024運営チーム。中央がディレクターのメルヴィン・ベン。

シンガポールで室内楽?
気温が氷点下まで下がる日も珍しくない1月の日本を出て6時間半、筆者は新しい室内楽フェスティバルに参加する為に、30度の気温と日本の梅雨を思わせる湿度漂うシンガポールに到着した。日本から視点が向けられることの少ない東南アジア都市国家のクラシック音楽、特に室内楽へのチャレンジは注目し価値する。

SCMF2024は当地の演奏団体 Re: SOUND Collectiveの代表で本フェスティバルのディレクターであるメルヴィン・ベンの願いによって立ち上げられた。

「シンガポールでクラシック音楽?」と思われるかもしれない。国土の問題や歴史的背景によって、建国以来実益優先の社会形成を求めざるを得ず、芸術や文化の振興が後回しにされてしまったのは否めないだろう。近年でこそ世界で活躍する音楽家を輩出

するなど進展目覚ましいが(日本でも日本フィルやドレスデンフィルでポストを持つカーチューン・ウオンが注目を集めている)、2003年に一度開催された室内楽フェスティバルも当時は室内楽の気運が高まっておらず継続に至らなかった。同年にシンガポール国立大学(アジアトップと目されるエリート校)内

にヨシ・シュートー音楽院(YST)が開設され国として音楽家を育成する機関が整ったものの、東京23区ほどの面積の都市国家ではフリーランスの音楽家が活動を行う機会が決して恵まれた数では無かった。せっかくYSTを卒業、そして優秀な若手は海外での更なる研鑽を積んでも、自国ではその卓越した技術を持って余す状況が続いたという。この状況を憂いたベンは、音楽家に安定的な公演機会を創るべく、2016年に Re: SOUND Collectiveを創設し、室内楽や室内オーケストラのコンサートを定期的に開催している。

フェスティバルを彩るアーティストたち

SCMF2024は「Connect, Share, Celebrate」のテーマの下、様々な仕掛けが取り入れられている。参加するアーティストはシンガポールの音楽家他に、日本から葵トリオ(ピアノ三重奏)、イギリスを拠点にするトリー・チャー・ハン(ピアノ)、そしてアメリカで活躍する弦楽四重奏ウェローナ・カルテットのジョナサン・オン(ヴァイオリン)が加わっていた。(ちなみに、ウェローナQは第8回大阪国際室内



会場となったヨシ・シュートー音楽院

楽コンクールで旧名「ヴァースムートQ」として3位を受賞している。) SCMF2024の軸となるコンサートは、YSTホールで4回開催された。

日本から招聘された葵トリオは、今回唯一の単独リサイタル(1/27)を任される。モーツァルト、細川俊夫、ドヴォルザークの三重奏曲で客席を大いに沸かせた。特に幽玄で繊細な細川の作品では、均整の取れたハランスで最弱音もホール全体に響かせ、常設アンサンブルとしての面目躍如となった。本公演には日本とヨーロッパ大使夫妻も来場し、口をそろえて細川作品の「スピリチュアルな雰囲気」について言及し、楽曲が意図するシャーマニズムや折柄性を感じていたことが印象深い。

2公演目(1/30)は、YST指揮陣による多彩な編成。欧米での輝かしいキャリアを



リサイタルを任された葵トリオ。現地の聴衆、関係者からの評価も高かった。



オンによる指導。あえて楽器を置いて自分のパートを歌いながら手拍子でテンポを確認する。

背景に新しくYST准教授に就任したニアンを中心に、シヨパン、ラフマニフ、シューマンの名曲から秘曲まで披露される。続いて開催されたのは「Friends, New World」と題されたコンサート(1/31)。若手からベテランまでが入り交じり、室内楽の喜びを交歓する。ここでは葵が現地の若手とシヨスタコーヴィチの五重奏を熟演。またオンと、現地で長年タン・カルテットを支えてきたレスリー・タン(チェロ)がチャイコフスキーの弦楽六重奏曲で情熱的に若手を率いていた。

室内楽を演奏する喜びも共有

最終公演に言及する前に、このフェスティバルのもう一つの大切な軸であるアカデミーについて紹介する。

「Connect, Share, Celebrate」のテーマは音楽家同士だけでは無く、愛好家と

も共に室内楽を享受することを目的に、アマチュアの演奏者を対象に室内楽アカデミーが2日間開催された。受講したのは28団体総計114名で、シンガポールだけでなくマレーシア(2団体)、インドネシア(1団体)、アメリカ(1団体)から参加もあり10歳程度の子供から70代の大ベテランまで多彩な顔ぶれだった。受講団体のレベルは様々だったが、ここではオンが技術指導だけに留まらず、「ここではオンが技術指導だけに留まらず、曲に合わせた体の動かし方」など抽斗の豊富さを見た。ウェローナQとして携わる米オーバリン大学での指導経験が活かされていることを感じる。

SCMF2024はカラコンサート(2/3)で最終日を迎える。この公演の前半では、前述のアカデミーで認められた5団体が成果を披露。ソロと同じステージに立つことで、緊張感と演奏の喜びを味わえたらう。



チャイコフスキーの弦楽六重奏曲では、フェスティバルに相応しい華やかさを見せた。



今回最年少のアカデミー受講アンサンブルも最終公演に出演。未来のプロの音楽家?

■ 2023(令和5)年度 第2回理事会

開催：2024年2月29日(木) ホテルニューオータニ大阪
承認事項：①2024(令和6)年度事業計画書及び収支予算書
②2023(令和5)年度臨時評議員会の招集と議題
報告事項：①会長、理事長、常務理事の
2023年度の職務執行状況

■ 2023(令和5)年度 臨時評議員会

開催：2024年3月15日(金) ホテルニューオータニ大阪
承認事項：①2024(令和6)年度事業計画書及び収支予算書
②評議員2名の選任
新任評議員：白石 淳(清水建設)
竹下 伸介(アサヒビール)

■ 2025(令和7)年度 助成金募集について

募集開始：2024年9月1日(日)
募集締め切り：2024年10月31日(木)
お問い合わせ：公益財団法人 日本室内楽振興財団
電話 06-6947-2183
詳細は8月頃、ウェブサイト(https://jcmf.or.jp)で発表予定です。

■ 2024(令和6)年度 助成金交付予定事業

2024年度の助成金交付事業を決定する選考委員会を1月31日(水)に開催し、厳正な審議の結果、以下13件が選考されました。

事業名	申請団体
QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2024	横浜楽友会
室内楽への招待	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
《身近なホールのクラシック》室内楽12345!	公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
東京現音計画#21～ミュージシャンズセレクション8:橋本晋哉2	東京現音計画
アンサンブル天下統一 アンサンブル・アカデミー	岡崎市シビックセンター指定管理者SPS・ト・エネック・ピーアンドピー共同事業体
SPAC-E #6 ポートレートシリーズ2: 内山貴博 -めくるめく協奏-	SPAC-E
定期公演B ～室内楽シリーズVol.21～Vol.25	特定非営利活動法人 京都フィルハーモニー室内合奏団
カルテット・エクセルシオ 結成30周年記念コンサート	特定非営利活動法人 エク・プロジェクト
第7回たかまつ国際古楽祭	たかまつ国際古楽祭実行委員会
フォーレピアノ五重奏曲全曲演奏会 -没後100年記念-(仮称)	公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団
直方谷尾美術館 第55,56,57,58回 室内楽定期演奏会	かんまーむじーくのおがた
絆シリーズ第4弾【イザイとドビュッシー】 絆シリーズ第5弾【イザイとフォーレ】	日本イザイ協会
第4回芦屋国際音楽祭	芦屋国際音楽祭実行委員会

選考委員
委員長／藤田 由之(指揮・評論)
委員／青澤 隆明(評論) 宇野 文夫(作曲家・神戸学院大学教授)
沼野 雄司(桐朋学園大学・大学院教授) 横原 千史(評論)

公益財団法人 日本室内楽振興財団 支援企業

- | | | | | | | | |
|--|---|---|---|--|--|--|---|
| 大阪ガス株式会社
関西電力株式会社 | 住友生命保険相互会社
大樹生命保険株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
日本生命保険相互会社 | 川崎重工業株式会社
株式会社クボタ
ダイキン工業株式会社
日本製鉄株式会社
日立造船株式会社
三菱重工業株式会社 | 非破壊検査株式会社
株式会社JTB
株式会社電通
株式会社ニュー・オータニ | 株式会社東芝
日本電気株式会社
パナソニック ホールディングス株式会社
株式会社日立製作所
富士通株式会社
ローム株式会社 | 野村證券株式会社
アサヒビール株式会社
サントリーホールディングス株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社 | 株式会社日建設計
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
株式会社きんでん
株式会社鴻池組
清水建設株式会社
大成建設株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社竹中工務店 | 株式会社読売新聞大阪本社
株式会社読売新聞東京本社
日本テレビ放送網株式会社
讀賣テレビ放送株式会社

(関連業種別 五十音順) |
| 株式会社関西みらい銀行
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
三井住友信託銀行株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社りそな銀行 | 東洋紡株式会社
株式会社ワコール
伊藤忠商事株式会社
岩谷産業株式会社
株式会社千趣会
三菱商事株式会社 | 近畿日本鉄道株式会社
京阪電気鉄道株式会社
南海電気鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
阪神電気鉄道株式会社 | 株式会社読売新聞大阪本社
株式会社読売新聞東京本社
日本テレビ放送網株式会社
讀賣テレビ放送株式会社

(関連業種別 五十音順) | | | | |

編集後記
今回のMiéさん描き下ろしの表紙のテーマはアフリカ!色とりどりのアフリカでとれるトロピカルなフルーツと、アフリカの楽器たちが登場しました♪P.9-10の「民族楽器の旅」でもアフリカの楽器を特集していますが…なかなか見ることが無いアフリカの楽器たち。私たちも調べながら、「こんな楽器あるんだ!」「あ、これ見たことある!」と発見がたくさんありました🎵🌟
次のフェスタに登場してほしいな、なんて思いながら編集作業をしていました。(まるこ)

編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団
〒540-8510 大阪市中央区城見1丁目3-50
TEL.06-6947-2183 FAX.06-6947-2198
https://jcmf.or.jp
Vol.61 令和6年4月1日
編集:菱田義和 大丸敦子(まるこ)
表紙:9-10Pイラスト:Mié



ベートーヴェンのプロフィール

「運命」や「第九」は言わずもがな、室内楽でもたくさんのお名曲を残しているベートーヴェン。4月からのトップアンサンブルシリーズでも、それぞれの回でベートーヴェンの曲が演奏されますね。でも作曲をしていないときは、どんな人だったんだろう…?さあ、ベートーヴェンのイラストとともに、その素顔を少し探ってみましょう!

本名：Ludwig van Beethoven (ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン) ☆由来は野菜!?

誕生日：1770年12月16日頃 (12月17日に洗礼を受けた記録が残っているため)
没日：1827年3月26日(56歳)
出身地：ドイツ・ボン
好きなもの：ワイン、コーヒー、卵料理、魚料理

☆酒は飲んでも飲まれるな!!
《フィデリオ》序曲の締切間近だったベートーヴェンは、ワインを飲みながら夜通し作業していましたが、飲み過ぎて寝てしまい初演に間に合わなくなっていました。

☆コーヒー豆は60粒!
こだわりの強いベートーヴェン。コーヒーの豆は1杯60粒と決めており、毎朝1粒ずつ自分で数えて淹れていました。

☆実らない恋…
ベートーヴェンは生涯でたくさんの女性に恋しましたが、その多くが年下の貴族の令嬢でした。両思いになることもありましたが、身分の差などの理由で結婚に至ることはありませんでした。

俺も1人の人間として好きなものや癖があるのだ!!

©やまみちゆか



やまみちゆか
音楽イラストレーター、漫画家。長崎県出身。長崎大学教育学部音楽科卒業、同大学院修了。クラシック作曲家の肉体的側面をイラストや漫画で親しみやすく描く。著書に「クラシック作曲家列伝」(マール社)、「ぼく、ベートーヴェン」(カワイ出版)など。
公式X(旧Twitter)@yamamichipiano